ミツバチ科学研究施設から

ミツバチ科学研究施設 図書・論文・資料リスト（2003）

図　書

松香光夫（分担執筆）．ミツバチの生産物（pp. 999-1002），花粉媒介昆虫（pp. 1004-1008）．昆虫学大辞典（三橋淳総編集）．朝倉書店．1220pp.

松香光夫．ミツバチ生産物とアピセラピー．兵庫県養蜂振興会．21 pp.

松香光夫（分担執筆）．ミツバチ．地域資源活用食品加工総覧　第12巻　畜産・水産・昆虫・非食品資源．農文協．pp. 291-302.

松香光夫（分担執筆）．ハチミツとアピセラピー．日中蜂医学術シンポジウム講演資料．ＮＰＯ蜂医研究会．pp. 44-57.

学術論文・記事

松香光夫．昆虫がつくり出す健康補助食品．農林水産技術研究ジャーナル 26(7): 39-44.

松香光夫．ミツバチ蜂児の食品としての有用性．New Food Industry 45(10): 1-5.

松香光夫．ローヤルゼリー．Korean Beekeeping bulletin 8 月号 : 10-11.（韓国語）

松香光夫．ミツバチが育む健康補助食品．ヘルスポスト 6(9): 10-11.

松香光夫．蜜源植物特集にあたって．ミツバチ科学 24(4): 145-146.

中村純・吉田忠晴．ミツバチの新害虫ハチノスムクゲケシキスイ．ミツバチ科学 24(2): 91-94.

中村純・吉田忠晴．ミツバチヘギイタダニの新学名と最近の防除技術．ミツバチ科学 24(3): 137-142.

Ono, M., H. Terabe, H. Hori and M. Sasaki. Components of giant hornet alarm pheromone. Nature 424(6949): 637-638.

Shao, Z., H. Mao, W. Fu, M. Ono, D. Wang, M. Bonizzoni and Y-P. Zhang. Genetic structure of Asian populations of *Bombus ignitus* (Hymenoptera, Apidae). J. Hered. 95(1): 47-53.

Fujiyuki, T., H. Takeuchi, M. Ono, S. Ohka, T. Sasaki, A. Nomoto and T. Kubo. Novel insect picorna-like virus identified in the brains of aggressive worker honeybees. J. Virol. 78(3): 1093-1100.

Ayabe, T., H. Hoshiba and M. Ono. Cytological evidence of triploid males and females in the bumblebee, *Bombus terrestris*. Chromosome Res. 12(3): 1-9.

小野正人．ハチが操る香りのことば．現代化学 391: 28-34.

小野正人．地球とともに生きる⑤ 環境に優しい農業のために、在来種のマルハナバチを育てる．らぼすこーぷ 27: 6-7.

小野正人．スズメバチの攻撃行動を促進する警報フェロモン．ブレインテクノニュース 100：9-12.

小野正人．セイヨウミツバチの導入とその後にみられた興味深い生物間相互作用（外来生物－つれてこられた生き物たち．中村ら編）．滋賀県立琵琶湖博物館，草津市．pp. 92-93.

小野正人．社会性ハチ類が生産する特異的栄養物質（平成 14 年度昆虫等の特異的栄養利用メカニズムの農林水産技術への適用に関する基礎調査委託事業報告書）．（社）農林水産技術情報協会，東京．pp. 16-23.

小野正人．ハチクマとスズメバチには不思議な関係があるようです．Birder 17(7): 82-83.

小野正人．セイヨウオオマルハナバチ－輸入開始後 10 年間を振り返る．国立科学博物館ニュース 399：11-13.

小野正人．キイロスズメバチの適応性．ミツバチ科学 24(1): 21-26.

Ichikawa, N. and M. Sasaki. Importance of social stimuli for the development of learning capability in honeybee. Appl. Entomol. Zool. 38(2): 203-209.

高橋純一・吉田忠晴．ミトコンドリアＤＮＡからみたニホンミツバチの起源．ミツバチ科学 24(2): 71-76.

その他の記事

松香光夫．ミツバチが育む健康補助食品　生命力の源・ローヤルゼリー．Health Post 6(61)：10-11.

松香光夫．第２回ドイツミツバチ生産物とアピセラピー会議．PRAQ 6(2): 9-10.

松香光夫．第 38 回国際養蜂会議に参加して．PRAQ 6(3): 3-4.

松香光夫．私とプロポリスの１年間．.PRAQ 6(4): 3-4.

中村純．舌でも楽しめるハチミツの文化誌（参考図書紹介）．ミツバチ科学 24(1): 44.

中村純．コーネル大学とミツバチ．ミツバチ科学 24(2): 81-84.

中村純．ミツバチの形態と機能（参考図書紹介）．ミツバチ科学 24(3): 143.

中村純．ブラジル産プロポリスを生産するミツバチを訪ねて．PRAQ 6(2): 6-8.

小野正人．社会性昆虫の遺伝子，行動，進化（参考図書紹介）．ミツバチ科学 24(3): 143.

吉田忠晴．ハチ類についての話（参考図書紹介）．ミツバチ科学 24(1): 44.

吉田忠晴. 第25回記念ミツバチ科学研究会を終えて. ミツバチ科学 24(2): 85-88.

吉田忠晴. 郷土にエールを贈る～私を育ててくれた函館の街. ステップアップ 170: 8.

学術・一般発表（口頭・ポスター発表，依頼講演）

Matsuka, M. Use of propolis in Japan. 2nd German Apitherapy Congr. (Passau)

Matsuka, M. Honey bee products as health foods. Korea-Japan Joint Conf. Appl. Entomol. Zool. (Busan)

Takahashi, J. K. S. Woo, M. Matsuka and M. Sasaki. Mitochondrial DNA variation in the *Apis cerena* from the south Korea. Korea-Japan Joint Conf. Appl. Entomol. Zool. (Busan)

松香光夫，桶谷米四郎，山崎則之，五十嵐雅陽，佐藤寿郎，中村博彦. ブラジル産プロポリスのマウス乳腺ガン（Ca755）に対する抗腫瘍効果. 第6回日本補完代替医療学会学術集会（仙台）

松香光夫. 昆虫がつくり出す健康食品. 昆虫機能講演会，農林水産技術情報協会主催（東京）

松香光夫. ハチミツとアピセラピー. 日中蜂医学術シンポジウム，蜂医研究会主催（東京）

松香光夫. ハチミツとアピセラピー. 日本アピセラピー協会研修会（東京）

松香光夫. ローヤルゼリー.（株）サニーマート講演会（東京）

中村純. ミツバチの飼養と疾病対策. 家畜衛生講習会，（独）動物衛生研究所主催（つくば）

藤幸知子・竹内秀明・小野正人・大岡静衣・佐々木哲彦・野本明男・久保健雄. 攻撃性が高いミツバチの脳に特異的に検出される新規ピコルナ様ウィルス kakugo の同定と解析. 日本昆虫学会第63回大会（東京農業大学）

Hoshiba, H. T. Ayabe, H. Hirai, Y. Hirai and M. Ono. The chromosome studies of the bumblebee, *Bombus terrestris*. 染色体学会 2003 年度（第54回）年会（国立科学博物館，東京）.

小野正人. 樹洞にすむ昆虫類－特に樹洞を生活の拠点とする社会性ハチ類の生態を中心に－. 樹洞シンポジウム（東京）

佐々木正己. 訪花昆虫の利用. スリランカ国野菜採種コース，（独）国際協力機構主催（つくば市）

佐々木正己. ミツバチの学習. ＣＯＥ公開講座，玉川大学主催（町田）

吉田忠晴・高橋純一. ミツバチ女王蜂における交尾飛行回数を決める要因. 日本動物行動学会第22回大会（北海道大学）

吉田忠晴. ミツバチ蜂群維持に関する配偶行動. 養蜂講習会，徳島県農林水産部主催（徳島）

吉田忠晴. 武蔵野台地に生きるミツバチ達. 東京三鷹ライオンズクラブ合同例会（三鷹）

吉田忠晴. ミツバチの病気と越冬期にむけての管理と手入れ. 三鷹市畜産研究会養蜂部講習会（三鷹）

吉田忠晴. ミツバチを主体とした総合学習. 広島県三次市神杉小学校（三次）

第47回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨（岩手大学）

寺部宏一・小野正人. 日本産スズメバチ属の警報フェロモンに関する研究. p. 92.

掘沙耶香・竹内秀明・佐々木正己・市川直子・久保健雄. セイヨウミツバチ (*Apis mellifera* L.) における光刺激 -PER 連合学習. p. 93.

市川直子・須賀恭平・佐々木正己. ミツバチの吻伸展反射連合学習に及ぼす蜜胃の拡張情報と血糖の影響. p. 129.

（特許，雑誌・パンフレットなどの掲載，テレビ・ラジオ出演，協力，新聞掲載は次号）

ニュース

第26回ミツバチ科学研究会開催

1月11日に開催された第26回の研究会では，前年同様に公募した講演発表6題，一般報告1題，特別講演2題の計9題（下記）の発表が行われた．学外だけでも264名と過去最高の参加者数であった．講演の一部および参加記事は次号に掲載の予定．

「総合学科高校における養蜂農家と連携した教材開発の取り組み」建元喜寿，「スズメバチ遮断柵の改良－100％の遮断をめざして－」久志冨士男，「スズメ蜂からミツバチを守る」大竹茂理，「薬物汚染を回避する自然養蜂と蜂群管理のあり方について」山口喜久二，「アカシア蜜は硫黄酸化物で大被害か？」光源寺岑生，「日本蜂研究会と開発養蜂具の紹介」青木圭三，「第38回国際養蜂会議，第7回アジア養蜂研究協会大会」松香光夫，「ミツバチはプロポリスをどのように作るのか？」中村純，「ローヤルゼリー中に新たに見出された品質指標物質「ロイヤラクチン」の構造と生理機能」鎌倉昌樹（「演題」講演者名，敬称略）

編集後記　巻頭記事は和田氏の取材力に舌を巻く「満州ミツバチ100万群計画」．おそらく史上最大の養蜂計画であったろう．侵略や戦争自体は不幸で二度と繰り返してはならないが，ミツバチで国を豊かにという発想はどこか受け継ぐことのできるものがないだろうか？　Crane 博士の滞在記は外国人の日本観で愉快な読み物になっている．（純）